

がん治療の今

■■■16

発症率増加傾向

血液中の白血球は、顆粒球とリンパ球に分けられ、細菌などによる感染から身を守る「免疫」といった重要な役割を果たしています。リンパ球は、細菌やウイルスなど直接排除するNK(ナチュラル・キラー)細胞、抗体産生に関わるB細胞、リンパ球全体の司令塔となるT細胞に分類されます。

悪性リンパ腫編

最新の治療薬提供可能

悪性リンパ腫(以下リンパ腫)は、リンパ球が「がん化」した造血器腫瘍で、リンパ節もしくは消化管や肺など、あらゆる臓器に腫瘍を形成します。リンパ腫は造血器腫瘍

12年)で、年間10万人当たり約10人でしたが、年々増加傾向です。リンパ腫を分類すると、ホジキンリンパ腫が10%、非ホジキンリンパ腫が90%です。非ホジキンリンパ腫の中では、B細胞リンパ腫が多く、リンパ腫全体の4分の3程

悪性リンパ腫の分類

ホジキンリンパ腫
欧米ではリンパ腫全体の約3割を占めるが、日本では10%と少ない

B細胞リンパ腫
非ホジキンリンパ腫の3/4

T細胞リンパ腫
非ホジキンリンパ腫の1/4

非ホジキンリンパ腫
日本ではリンパ腫全体の90%
60-70歳代に多い

☆NK細胞リンパ腫(頻度は数%)

B細胞リンパ腫のモノクローナル抗体(分子標的)治療

可変部位: マウス由来 (Bリンパ腫のCD20と反応)

定常部位: 定常部位: ヒト由来 (ヒトの免疫系を活性化)

IDEC C2B8 (リツキシマブ)
CD20 抗原に対するキメラ抗体

キメラ(融合)型抗CD20抗体リツキシマブの模式図

リツキシマブの作用機序

1. リツキシマブ抗体がB細胞表面のCD20抗原に結合する。

2. 結合した抗体がB細胞を認識し、殺傷作用を誘発する。

3. B細胞が壊滅し、抗体産生が抑制される。

4. リツキシマブ抗体はマウス由来の抗体とヒト由来の抗体とで構成される。

度です。T細胞リンパ腫は4分の1程度で、NK細胞リンパ腫は極めてまれです(図1)。

診断ではリンパ節など臓器を生検し、顕微鏡で病理組織を調べます。陽電子放射断層撮影(PET)検査で、リンパ腫の広がりを調べる事が可能です。

や放射線が効きやすい腫瘍であり、約半数の患者さんで治療が期待できます。一方で、再発が多いことも特徴です。

完全寛解(リンパ腫が消失した状態)が得られた後に再発した際も、若年者では、自家末梢血幹細胞移植併用大量化学療法によって治療が期待できます。

高齢者は、自家末梢血幹細胞移植の対象となり

在はリツキシマブを併用したR-CHOP(アーリー・チョップ)が、B細胞リンパ腫の標準治療となつていきます。

製鉄記念室蘭病院では、自家末梢血幹細胞移植はもちろん、リンパ腫に対して最新の治療薬を提供することも可能です。

名ベルケイド)、T細胞リンパ腫ではモガムリス(商品名ボテリジオ)など、新規分子標的治療薬による有効性が注目されておられ、リンパ腫の治療成績は年々向上しています。

きょうせみナー

非ホジキンリンパ腫には、20世紀末までシクロfosファミド・アドリアマイシン・ビンクリスチン(オンコビン)・プレドニゾロンを組み合わせたCHOP(チョップ)療法が標準治療でした。B細胞リンパ腫のみが発現するCD20抗原を標的としたリツキシマブ(商品名リツキシマブ)が、世界初の抗体医薬として開発されました(図2)。

2001年(平成13年)から日本でリツキシマブが使えるようになり、現在

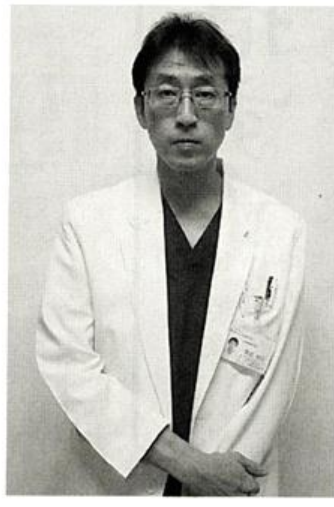
ませんが、それを凌駕するべく、種々の新規薬剤が開発されております。

ホジキンリンパ腫では、ブレンツキシマブ・ベトリン(商品名アドセトリス)やニボルマブ(商品名オプジーボ)、B細胞リンパ腫ではイブルチニブやボルテゾミブ(商品

能になりました。両館を除いた道南でPET検査ができるのは、製鉄記念室蘭病院と日鋼記念病院で、治療前・経過中・治療終了後にPET検査を行い、治療方針の選択や治療効果の判定も可能です。

リンパ腫は、抗がん剤

なほ、きょう18日午後3時から、製鉄記念室蘭病院がん診療センター大講堂で、「悪性リンパ腫と多発性骨髄腫」をテーマにしたセミナーを開催します。参加無料、予約不要ですので、ぜひご参加ください。



くろだ・ひろゆき
1991年(平成3年)札幌医大卒。医学博士。血液学会専門医・指導医。造血細胞移植学会認定医。臨床腫瘍学会暫定指導医。49歳。

製鉄記念室蘭病院・黒田裕行血液腫瘍内科長